

**西原総合教育施設体育館にエアコン設置を！
市独自のルールでゴミ屋敷対策を進めよう**

自由民主党西東京市議団 山田 忠良(やまだ ただよし)

**屋内スポーツの熱中症対策**

問 にしはらスポーツクラブ利用者のために、体育館にエアコンを設置すべきだ。市の見解は。

答 近隣施設の確保には課題もあるが、子どもたちの安全な環境確保向け、関係機関と協議する。

不良居住建築物(ゴミ屋敷)対策

問 福祉と環境部門が連携し、深刻化する前に早期発見・介入できる市独自のルールを検討すべきだ。市の見解は。

答 物品の堆積は地域に悪影響と認識している。事案のさらなる早期対応を図るため、体制整備の在り方を検討していく。

拉致問題に関する平和人権教育

問 市ゆかりの拉致被害者・久米裕さんの事件を風化させないよう、庁舎でのパネル展示や広報で特集する

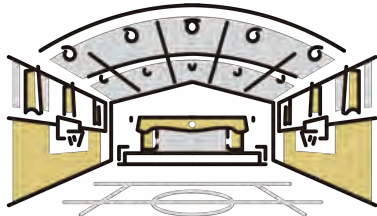
ことを提案する。市の見解は。

答 当事者意識を持つべき課題。ワークショップやパネル展示など、周知啓発方法を検討する。

若者をSNS犯罪から守る

問 闇バイトやSNS詐欺の被害・負担を防ぐため、市はどう取り組むのか。

答 警察や防犯団体と連携し、若者への啓発と情報発信を進めていく。

**不登校児童・生徒への支援の充実を求める**

自由民主党西東京市議団 とみなが ゆうじ

**小中学校の教育について**

問 全国的に不登校児童・生徒の数は増加傾向にある。令和6年度の小中学校における不登校児童・生徒数は12年連続で過去最多を更新している。市内の小中学校における不登校の実態について、進路相談やスクールソーシャルワーカーの支援は。

答 不登校の児童生徒数は本市も全国と同様となっている。進路相談については、各学校において複数回にわたって行われており、毎年の夏季休業日に、不登校生徒・保護者を対象とした進路に関する話を聞く会を都立高等学校の協力により開催している。進路の状況については、生徒の進路希望に応じた支援等の下、公立高校への進学につながっているものと考えている。なお、生徒の評定は可能な限り参考にできる資料等を

集約し活用して行っている。スクールカウンセラーの支援については教員と連携し、一人一人の状況に応じて家庭訪問による児童生徒との関係づくりなど、保護者や児童生徒に寄り添いながら解決に向けて取り組んでいる。

その他の質問

◇物価高騰対策について
◇平和事業について

**誰もが輝く、共生社会をつくりたい！**

自由民主党西東京市議団 酒井 ごう一郎(さかい ごういちろう)

**まちづくりについて**

問 西武柳沢駅南口方面から都立東伏見公園に入るためには、横断歩道がなく、危険な横断をする状況が続いている。早急に対応せよ。

答 田無警察署と対応を協議する。

問 青梅街道に架かる柳沢歩道橋の接道する歩道の一部は、幅員が狭くなり高齢者やベビーカー利用者が安全にすれ違ふことが難しい。防災面からも早急に除却せよ。

答 令和8年度に除却工事を行う。

公園について

問 夏の風物詩である手持ち花火を体験する機会が減っている。公園での花火利用を実施すべきだ。

答 課題整理を行い検討していく。

問 西東京いこいの森公園のスケート広場は劣化が進み、安全面が心配だ。計画的な改修を実施せよ。

答 経年劣化もあり改修が必要と認識している。総合的に判断する。

平和学習について

問 辺野古沖の事故に関し、文科省は同志社国際高校の教育内容を教育基本法違反と認定。特定の政治的主張を誘導する教育は、平和学習でなく政治教育だ。教育長の見解は。

答 公正かつ客観的な立場で教育活動を行う。



▲ベビーカーと歩行者がすれ違えない柳沢歩道橋横

**支えを必要とする人だけでなく
支える人にも寄り添う市政へ**

自由民主党西東京市議団 佐藤 大介(さとう だいすけ)

**老老・認認介護の可視化について**

問 老老介護や認認介護*は、介護者の孤立や共倒れにつながる深刻な課題である。支援につながっていない潜在的な世帯をどのように把握し、支援へ結びつけていくのか伺う。

答 地域包括支援センターによる訪問や見守り活動を実施している。今後はICTを活用した見守りサービスの導入についても検討していく。

意見 真に支援が必要な方ほど行政につながっていない場合がある。待つ支援ではなく、早期発見・早期支援につながる仕組みづくりを求める。

支援する側を守る福祉施策について

問 介護や障害福祉の現場では、利用者等からの暴言や暴力、過度な要求などが課題となっている。市の認識と対策について伺う。

答 カスハラ*は職員の意欲低下や離

職につながる可能性がある」と認識している。都の相談窓口の周知や関係機関と連携した支援を行っていく。

意見 福祉を守るためには、まず福祉を支える人を守らなければならない。安心して働き続けられる環境づくりを求める。

その他の質問

◇社会的障壁について
◇感覚過敏のある方への配慮

**西東京市が目指す探究的な学習とは**

自由民主党西東京市議団 中川 清志(なかがわ きよし)



問 西東京市が目指す、探究的な学習とは何か。

答 探究的な学びのサイクルは、子どもたちの学力の定着に向けた資質・能力を育成するための必要な学びの在り方。単に知識や技能を習得するだけではなく、習得した知識や技能を活用しながら、自ら課題を見だし、多様な他者と協働し、考えの自己形成を図る力。課題を見だし、主体的に課題解決に関わり、課題を解決していく中で次の課題を見出す学習の過程そのものが、育成すべき資質・能力。本市では、知識と現実の事象を関連づけた学びについて、各教科における取組に加え、ふるさと探究学習を全ての学校で教育課程に位置づけ、地域を学習材として探究学習的な学びの過程を重視した取組も推進している。各校の取

組事例の共有や情報交換を行い、探究的な学びに関する指導力向上に努めている。明らかな解決法が存在しない課題や批判的に考える必要がある課題を取り上げた指導も行う。デジタルの活用も、上向台小学校等3校で研究校に指定され、成果が見られている。地域コーディネーターとの連携も、取組事例の共有等、各校の実践に生かしている。

**市の様々な業務でのAI活用と取組は？
AIリテラシー教育について**

自由民主党西東京市議団 坂井 かずひこ(さかい かずひこ)



問 生成AIをはじめとするデジタル技術は人類の働き方や社会構造そのものを変えようとしている。行政サービスを維持することが難しくなる時代が確実にやってくると思うが、生成AIやAI技術全般について、今後自治体運営の中でどのような位置づけで考えているか伺う。

答 AIの活用については社会全体で急速に広がり、今後これまで以上に日常生活においてAIに触れる機会が増えていくものと考えている。本市においてもこうした社会の変化に対応するため、AIをはじめとしたデジタル技術の活用を積極的に推進し、行政サービスの利便性の向上や行政運営の効率化を図り、持続可能な行政運営に向けた取組を進める必要性を認識している。

問 生成AIは既に企業や大学、行政の現場でも活用が進み、今後、子どもたちが社会に出る頃にはAIを活用することが当たり前になると考えている。見解を伺う。

答 授業等において意図的・計画的に活用することが重要であると捉えている。タブレット端末で生成AIの仕組みや効果的な活用の仕方を知りながら、有効な活用方法を検討している。



*老老介護、認認介護 老老介護：高齢者の介護を高齢者が行うこと。主に65歳以上の高齢の夫婦や親子、兄弟などのどちらかが介護者であり、もう一方が介護される側となるケースを指す。
認認介護：高齢の認知症患者の介護を認知症である高齢の家族が行うこと。
*カスハラ(カスタマーハラスメント) 利用者等から職員に対し、その業務に関して行われる著しい迷惑行為であって、職員の勤務環境を害するもの。